

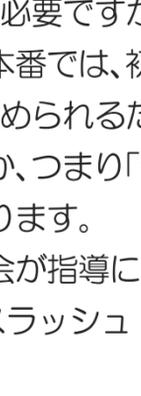
6色マーカー学習法®

古文対策～高校受験対策～

大阪府内の私立高校入試における国語は、多くの学校で「長文読解2題・古文・文法・漢字」で構成されています。近年は、現代文の長文が非常に長く、情報量も多い学校が増えており、**文章の流れを素早くつかみ、限られた時間で正確に読み進めていく力**が求められます。そのため、古文をいかに短時間で確実に得点できるかが、全体の得点にも影響し、合否ポイントのひとつにもなります。

古文は、私立高校では、学校によって内容の難易度こそ異なりますが、毎年10点以上の配点があり、軽視できない単元です。出題の中心は物語の内容理解で、**「いつ」「誰が」「どこで」「誰を・何を」「どうした」といった基礎的な読み取り**が問われます。

特に「誰が(主語)」を正しくつかむことは、古文読解の最重要ポイントです。ここを読み違えると、物語の筋が大きくずれてしまい、その後の設問がすべて不正解につながることもあります。



では、古典を効果的に勉強するにはどうすれば良いのでしょうか。

古典単語や文法を覚えることは確かに必要ですが、それだけでは十分とは言えません。入試本番では、初めて見る文章をその場で読み解く力が求められるため、一度の演習からどれだけ学びを得るか、つまり「勉強の質」を高めることがとても重要になります。

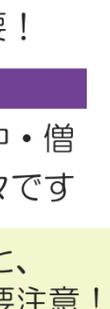
そこで力を発揮するのが、アーク進学会が指導に取り入れている「6色マーカー学習法」と「スラッシュリーディング」です。

6色マーカー学習法では、登場人物、場所、時間を色ごとに整理しながら読み進めるため、文章の構造が視覚的に理解しやすくなります。単に問題数をこなす学習よりも、文章の読み取りの質が格段に上がります。

さらにスラッシュリーディングを組み合わせることで、文の切れ目や流れが把握しやすくなり、古文特有の語順にも対応しやすくなります。

これらの学習法を継続することで、文章の本質を素早くつかむ力が身につく、古文の得点も安定。結果として、国語全体の得点の向上が可能になります。

本文へのマーキング



○マーキング

■人物 → オレンジ

「誰が」や「誰を」を見分ける重要なこととは古典の読解に最も重要な要素です！



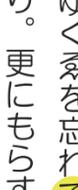
人だけでなく、動物や虫なども会話文のある登場人物となりえます。

■時間 → 緑

現在と過去をまたぐ問題も多いため、時間の経過を見分けることは内容理解に必要！

■場所 → 紫

どこで起こっている場面なのか。宮中・僧が修行している寺院・旅の道中など様々です



同じ場所なのに指示語の部分と、固有名詞での表現があれば、要注意！

主語を読み解く二つの用法



●主語同一用法『て』・『で』

接続助詞の『て』と『で』の前後の文章では、主語が同じである可能性が高い！



文をつなぐ『て』・『で』が出てきたら○をつけておこう！

●主語転換用法『を』・『に』・『が』・『ど』・『ば』

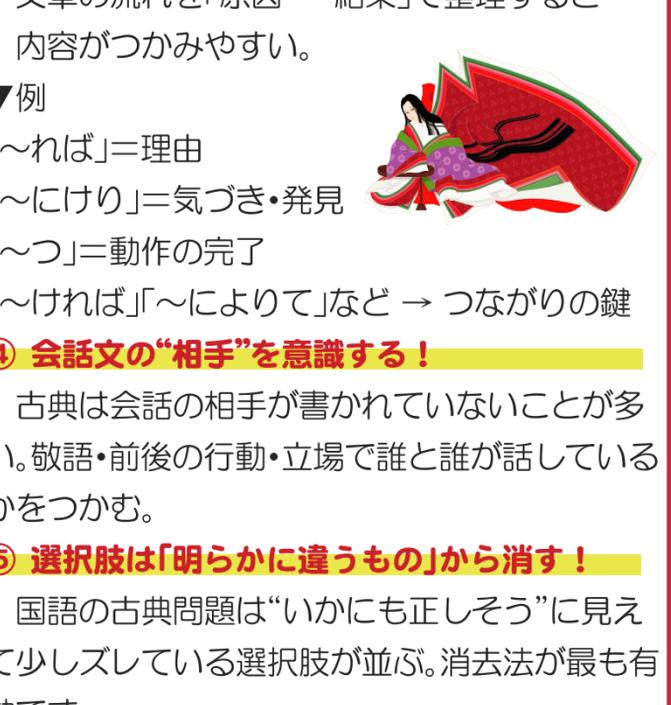
接続助詞の『を』・『に』・『が』・『ど』・『ば』の前後の文章は、主語が変わりやすい！！

『を』・『に』・『が』・『ど』・『ば』の後には/ (スラッシュ)を入れることで、変化をわかりやすくしよう！

※絶対ではないけれど、主語が続きやすいタイミング、主語が変わりやすいタイミングが見分けよう！大学受験でも使えるテクニックです！

～五ツ木テスト会から (問題改)～

天竺に、身の色は五色にて、角の色は白き鹿一つありけり。①深山にのみ住みて、人に知られず。その山のほとりに大きな川あり。ある時、この川に男一人流れて、すでに死なんとす。「我を人、助けよ」と叫ぶに、この鹿、この叫ぶ声を聞きて、悲しみに堪えずして、川を泳ぎ寄りて、この男を助けてけり。男、命の生きぬる事をよこさば、手をすりて鹿に向かひていはく、「何事ももちてか、この恩を報ひ奉るべき」といふ。鹿のいはく、「何事ももちてか恩をば報はん。ただこの山に我ありといふことを、ゆめゆめ人に語るべからず。我が身の色五色なり。人知りなば、皮を取らんとて、必ず殺されなん。この事を恐るるによりて、かかる深山に隠れて、敢へて人に知られず。しかるを、汝が叫ぶ声を悲しみて、身のゆくゑを忘れて、助けつるなり」といふ時に、男、「これまことに理なり。更にもらす事あるまじ」と、返す返す契りて去りぬ。(『宇治拾遺物語』より)



～古典(古文)の解き方のコツまとめ～

① 主語をつかむ(古典で一番大事!)

古典は主語が省略されることが多いので、「誰が」「誰に」→敬語の方向・動作・心情」で判断します。

▼ポイント例

「～給ふ(たまふ)」→ 主語は身分の高い人
「参る・まかる」などの動詞 → 動作する人物の立場がわかる

② 古語の意味をセットで覚える!

単語は単独ではなく、よくある意味のセットで覚えると効率的。

▼例

「あはれ」=しみじみとした情感
「いと」=とても
「をかし」=風情がある・趣がある
「やる」=行かせる/遠くへ送る

③ 因果関係(なぜ? どうなった?)を追う!

文章の流れを「原因 → 結果」で整理すると内容がつかみやすい。

▼例

「～れば」=理由
「～にけり」=気づき・発見
「～つ」=動作の完了
「～ければ」「～によりて」など → つながりの鍵

④ 会話文の“相手”を意識する!

古典は会話の相手が書かれていないことが多い。敬語・前後の行動・立場で誰と誰が話しているかをつかむ。

⑤ 選択肢は「明らかに違うもの」から消す!

国語の古典問題は「いかにも正しそう」に見えて少しズれている選択肢が並び、消去法が最も有効です。